

本資料はアストラゼネカ英国本社が2011年10月27日に発信したプレスリリースを日本語に翻訳し、みなさまのご参考に供するものです。本資料の正式言語は英語であり、その内容・解釈については英語が優先します。

## AstraZeneca PLC 2011年第3四半期・9カ月累計業績

ロンドン発 2011年10月27日

### 第3四半期の売上は恒常為替レート（CER）ベースで2%減の82億1,300万ドル

- ・ クレストール、シムビコートおよびセロクエルXRの売上は堅調
- ・ 売上実績は後発品の競合による3億5,000万ドル超の売上減、ならびに政府による価格介入の影響を反映しています
- ・ 新興国市場の売上はCERベースで第3四半期は7%増加し、9カ月累計では10%増加しました。

### 第3四半期中核営業利益は、売上減少にともない、CERベースで2%減の31億7,700万ドル

- ・ 中核営業利益率はCERベースで0.3ポイント減の売上の38.7%でした。この微減は、研究開発投資の増加が、売上総利益の増加と販売及び一般管理費の減少により概ね相殺されたことによります。

### 第3四半期中核1株当たり利益（EPS）はCERベースで12%増の1.71ドル

- ・ 中核EPSは、株式の買い戻しにより発行済み株式数が減少したこと、および前年同期に比べて税率が低下したことによりプラスの影響を受けました。

### 第3四半期の報告ベースのEPSはCERベースで140%増の2.56ドル

- ・ 中核EPSから除外されたアストラテックの売却益は2011年第3四半期に1.8ドルでした。2010年第3四半期には法務関連引当金の0.24ドルが含まれており、これが2011年第3四半期の報告ベースのEPSの増加率に寄与しました。

9カ月累計の株主に対する正味現金配分は、64%増の76億4,200万ドルでした。

中核EPSの通年目標を、主に為替変動を受けて、7.20ドル～7.40ドルのレンジに上方修正（以前は7.05ドル～7.35ドル）

### ファイナンシャルサマリー

グループ	第3四半期 2011 100万ドル	第3四半期 2010 100万ドル	前年 同期比 %	CER %	9カ月累計 2011 100万ドル	9カ月累計 2010 100万ドル	前年 同期比 %	CER %
売上高	8,213	7,898	+4	-2	24,935	24,652	+1	-3
<b>報告ベース</b>								
営業利益	4,262	2,406	+77	+78	10,628	9,083	+17	+16
税引き前利益	4,169	2,258	+85	+86	10,315	8,694	+19	+18
1株当たり利益	\$2.56	\$1.08	+137	+140	\$6.17	\$4.45	+39	+38
<b>中核</b>								
営業利益	3,177	3,231	-2	-2	10,177	10,738	-5	-6
税引き前利益	3,084	3,083	-	-1	9,864	10,349	-5	-5
1株当たり利益	\$1.71	\$1.50	+14	+12	\$5.67	\$5.32	+7	+6

\*当社経営陣は当社の業績を理解していただく上で有益であると考えられるGAAP（一般会計原則）とは異なる補足的な指標として中核財務指標も報告しています。2011年の財務ガイダンスはこの指標に基づいています。中核財務指標および中核と報告ベースの財務指標の調整については10ページと11ページをご覧ください。

最高経営責任者デビッド・ブレナンは次のように述べました：「当社は、予測された後発品の競合および政府による価格介入に影響を受けましたが、第3四半期、売上および中核利益において予想通りの業績を達成しました。計画を確実に実践することで、前年を大きく上回る配当金および正味株式の買い戻しにより、引き続き株主の皆様に対して堅調に現金を還元しています。また、中核EPSの年間目標を上方修正しました。」

ビジネスハイライト 別段の記載がない限り、伸び率はすべて恒常為替レート（CER）。

### 第3四半期

第3四半期の売上はCERベースで2%減、為替レート動向のプラス影響を受けて実質ベースで4%増でした。売上げ実績は、政府の価格介入および後発品の競合による3億5,000万ドル超の売上減の影響を受けました。米国の売上は、医療保険制度改革政策が実施されたことによる3.5%のマイナス影響を受け、前年同期並みでした。ROW（米国・西ヨーロッパ以外の地域）の売上は3%減でした。西ヨーロッパの売上は、後発品との競合および実勢価格の1桁台半ばの下落による売上減を受け、15%減でした。ROW（米国・西ヨーロッパ以外の地域）の既成市場の売上は7%増でした。新興市場の第3四半期売上は、ブラジルでクレストールとセロクエルIRが独占権を失い、中東地域で政府入札が若干遅れたこと（第4四半期に出荷の見通し）の影響を反映し、7%増でした。

第3四半期中核営業利益は、売上減少にともない、2%減の31億7,700万ドルでした。中核売上総利益は、lesogaberanに関連した無形資産評価減が含まれていた前年同期を上回りました。販売一般管理費は、効率化による削減額が新興市場への投資、製品発売、米国の医療保険制度改革政策に関連した消費税を上回ったため、2%減でした。中核研究開発費は、後期臨床試験とバイオ医薬品への支出増が効率化による費用削減によって部分的に相殺され、10%増でした。報告ベースの営業利益は、中核利益から除外されたアストラテック売却益からのその他収入14億8,300万ドルを含め、78%増でした。前年同期比で法務関連引当金が減少したことにより、今期の報告ベースの営業利益がプラスの影響を受けました。

第3四半期中核1株当たり利益（中核EPS）は、前年同期の1.50ドルから12%増の1.71ドルでした。中核EPSは、株式の買い戻しにより発行済み株式数が減少したこと、前年同期に比べて税率が低下したこと、および純財務費用が減少したことによりプラスの影響を受けました。第3四半期の報告ベースのEPSは、アストラテック売却による非課税利益と前年同期比で法務関連引当金が減少したことを受け、140%増の2.56ドルでした。

### 9カ月

9カ月の売上はCERベースで3%減、為替レート動向のプラス影響を受けて実質ベースで1%増でした。米国の売上は5%減でした。ROW（米国・西ヨーロッパ以外の地域）の売上は1%減でした。西ヨーロッパの売上は10%減でした。米国と西ヨーロッパ以外の既成市場の売上は5%増でした。9カ月の新興市場の売上は、10%増加しました。

9カ月中核営業利益は、研究開発と販売一般管理費の増加が、PDL Biopharma社との特許係争の和解による第1四半期の利益を含む売上総利益の増加によって部分的に相殺され、6%減の101億7,700万ドルとなりました。報告ベースの営業利益は、アストラテックの売却益を含めて16%増でした。

9カ月中核EPSは、以前に開示した税引当への正味調整と株式の買い戻しによるプラス影響を反映し、6%増の5.67ドルでした。9カ月の報告ベースの1株当たり利益（EPS）は38%増の6.17ドルでした。

### 生産性の向上

既に発表している事業再構築プログラムは、引き続き順調に推移しています。第3四半期に、事業再構築費用2億2,100万ドルが計上され、9カ月の合計額は5億200万ドルとなりました。プログラムは支出コストも経費削減についても予定通り進捗しています。

### 配当および株式の買い戻し

9カ月に、当社は、2011年に正味株式買い戻し40億ドルという当初の目標に向けて、38億7,800万ドルの正味株式買い戻しを完了しました。アストラテックの売却が8月末に完了し、当社グループは、通年で約50億ドルという修正された目標を達成できる見通しです。アストラテック売却益を充当した買い戻しを2012年に完了する予定です。

当社グループは、9カ月に8,920万株を合計42億5,600万ドルで買い戻す一方で、株式オプション行使の対価として990万株を合計3億7,800万ドルで発行しました。

2011年9月30日現在の総発行株式数は13億3,000万株でした

### 研究開発の最新情報

当社研究開発パイプラインの総合的な最新情報は、2011年上半期業績に関連して提供されており、引き続き当社ウェブサイト [www.astrazeneca.com](http://www.astrazeneca.com) の投資家向け情報でご覧になれます。

上半期の更新以降のパイプラインの進展は下記を含みます。

### **Brilinta/Brilique**

2011年8月30日、アストラゼネカは、欧州心臓病学会（ESC）発行の改訂版「STの持続的上昇を示さない急性冠症候群（ACS）の管理に関するガイドライン」に *Brilique*（チカグレロル）が組み入れられたことを発表しました。

この2011年版ガイドラインでは、チカグレロルは、初期の治療戦略にかかわらず、クロピドグレルによる前治療を受けた患者を含め、虚血イベントのリスクが中等度から高度のすべての非ST上昇ACS患者に推奨されています。ただし、クロピドグレルは、チカグレロルの投与開始に伴って中止する必要があります。

2011年10月4日、アストラゼネカは、ドイツの保険償還団体である連邦合同委員会（G-BA）が *Brilique* の医療ベネフィットに関する医療評価機構（IQWiG）の暫定レポートを発行したことを発表しました。アストラゼネカは、非ST上昇心筋梗塞/不安定狭心症（NSTEMI/UA）の適応において、対照薬（クロピドグレルとアスピリンの併用）との関連で「重要な追加的ベネフィット」（格付け2）という格付け評価を含む、この暫定評価に満足しています。NSTEMI/UAは、ドイツの急性冠症候群（ACS）患者の72%を占めると推定されています。クロピドグレルではなくプラスグレルを対照薬としたSTEMI/PCI（ST上昇心筋梗塞/経皮的冠動脈形成術）サブ患者群については、「追加的なベネフィットなし」（格付け5）に指定されました。STEMI/冠動脈バイパス術およびSTEMI/薬剤治療の患者群についても、格付け5となりました。

アストラゼネカは、プロセスの次の段階に進むことを期待し、今後数週間に、この評価に関してG-BAに回答する予定です。その後、最終的なベネフィット評価（2012年初頭の見込み）を経て、アストラゼネカは、ドイツ連邦公的医療保険協会（GKV-SV）と価格に関する協議を開始する予定です。

2011年10月5日の会議後、フランス透明性委員会（FTC）は、*Brilique*の医療上のベネフィットに関し、アストラゼネカに暫定的評価を与えました。これには、*Brilique*を保険償還の対象に指定する医学的便益（SMR）レベル「重要」、および、既存の患者管理オプションと比較して「医学的改善なし」だがリスト掲載を推奨する医学的便益比較評価（ASMR）格付け5が含まれています。アストラゼネカは、近くFTCに回答を提示し、フランスのACS患者がこの革新的医薬品にアクセスできるよう、合意する解決策を模索したいと考えています。

2011年10月26日、英国国立医療技術評価機構（NICE）は、イングランドとウェールズの国民保健サービス（NHS）に関し、成人ACS患者の治療オプションとして、最長12カ月間のチカグレロルとアスピリンとの併用を推奨する最終ガイダンスを発表しました。

*Brilique* は現在、20カ国で価格承認を取得し、9カ国で保険償還の対象となっています。本製品は現在、EU（*Brilique*の商標）、および米国・ブラジル・カナダ・オーストラリア（*Brilinta*の商標）を含む47カ国で承認されています。

### **Dapagliflozin**

2011年10月26日、アストラゼネカとブリストル・マイヤーズ スクイブ社は、米国食品医薬品局（FDA）が2型糖尿病治療薬dapagliflozinに関する措置決定日を3カ月間延期したことを発表しました。処方薬ユーザーフィー法（PDUFA）に基づく新たな期限日は、2011年1月28日です。

dapagliflozinの追加データを求めるFDAの要請を受けて、ブリストル・マイヤーズ スクイブ社とアストラゼネカは、最近完了した第III相臨床試験と進行中の第III相臨床試験のデータを提出する予定です。このデータ提出によって、dapagliflozinの当初の新薬承認申請（NDA）が大幅に修正されます。

腎臓のSGLT2ターゲット阻害剤であるdapagliflozinは、ブリストル・マイヤーズ スクイブ社とアストラゼネカが共同開発しています。食事療法と運動療法の補助薬としてのdapagliflozinは、成人2型糖尿病患者における血糖値（グリコシル化血色素値、HbA1c）に対する安全性と有効性を評価するために、単剤および他の経口抗糖尿病薬との併用で研究が進められています。

## KOMBOGLYZE™

2011年9月23日、アストラゼネカとブリistol・マイヤーズ スクイブ社は、メトホルミンでコントロール不十分な成人2型糖尿病患者、またはすでに saxagliptin とメトホルミンの個別の錠剤を併用した治療を受けている成人2型糖尿病患者における食事療法と運動療法の補助薬として、KOMBOGLYZE™ (saxagliptin とメトホルミン HCl 速放製剤との配合剤) の販売承認申請が欧州医薬品庁 (EMA) の医薬品委員会 (CHMP) より肯定的見解を取得したことを発表しました。

CHMP は、saxagliptin とメトホルミンを併用している患者 2,158 例を含む 2 型糖尿病患者 4,326 例が参加した第 III 相臨床試験プログラムのデータを検討した後、肯定的見解に達しました。

KOMBOGLYZE™は、DPP-4 阻害剤の saxagliptin (ONGLYZA™) とピグアナイド系薬のメトホルミン速放製剤 (メトホルミン IR) を 1 錠にまとめた 2 型糖尿病治療薬です。

KOMBOGLYZE™に対する CHMP の肯定的見解は、EU 域内の医薬品承認権限を持つ欧州委員会によって審査されます。

## Ceftazidime/avibactam (CAZ-AVI)

2011年10月18日、アストラゼネカと Forest Laboratories 社は、ceftazidime/avibactam (CAZ-AVI) が複雑性腹腔内感染症 (cIAI) や複雑性尿路感染症 (cUTI) を含む重篤なグラム陰性菌感染症の入院患者の治療における有効性を調査する第 III 相試験段階に入ることを発表しました。CAZ-AVI は、抗生物質耐性を克服し、既存治療薬への耐性を持つ多くの感染症を治療することを目的として、抗菌スペクトルが広いセファロスポリン (セフトラジム) と新規ベータラクタマーゼ阻害剤 (avibactam、旧 NXL104) を組み合わせたものです。

この試験プログラムは、2014 年に予定されている世界的な薬事申請を支持することを目的としたものであり、CAZ-AVI が、現在利用できる抗生物質への耐性を持つ感染症患者を含む cIAI および cUTI 患者にとって十分な忍容性を有する有効な治療薬であることを示すための 5 件の第 III 相試験が含まれています。

共同研究の一環として、本剤の開発費は、アストラゼネカと Forest 社が共同で負担します。Forest 社は、北米での CAZ-AVI 販売権を取得し、アストラゼネカは、それ以外の地域での CAZ-AVI 販売権を取得します。

## クレストール

2011年9月2日、アストラゼネカは、SATURN 試験 (Study of Coronary Atheroma by InTravascular Ultrasound: Effect of Rosuvastatin Versus Atorvastatin) : 結果を発表しました。SATURN 試験はハイリスク患者を対象にクレストール 40mg とアトルバスタチン 80mg の冠動脈プラークへの影響を血管内超音波 (IVUS) を用いて検討した試験です。

主要評価項目である標的冠動脈 (血管長40mm以上) における冠動脈プラーク体積率の変化 (PAV; percent atheroma volume) において、クレストールはアトルバスタチンに比べ数値上大きな減少を示したものの、統計学的な有意差は認められませんでした。副次的評価項目である総プラーク体積 (TAV; total atheroma volume) の変化において、クレストールはアトルバスタチンに比べ統計的に有意な減少を示しました。

また、SATURN試験におけるクレストールの忍容性、有効性はこれまでの試験成績、製品情報 (添付文書) の記述と同様であることが確認されました

なお、SATURN試験の詳細データは11月15日、AHAで発表予定です。

## Axanum

2011年8月2日、アストラゼネカは、81 mg 低用量 ASA (アセチルサリチル酸) と 20 mg エソメプラゾールの配合剤である Axanum が EU 加盟 23 カ国とノルウェーで承認合意を得たことを発表しました。Axanum は、日常的に低用量の ASA 治療を必要とし、胃潰瘍リスクを有する心血管疾患高リスク患者における心臓発作や脳卒中などの心血管 (CV) イベントの発症抑制に適応されます。

Axanum は、低用量 ASA の各錠に胃潰瘍に対する保護が組み込まれた唯一の医薬品です。つまり、Axanum は、この患者群において継続的な心血管保護を実現する可能性があります。

EU の決定は、分散承認審査方式にて、ドイツを参照国として下されました。このプロセスの後、各国で承認され、現在、価格と保険償還に関する協議が行われています。

## MEDI-528

今期に、IL-9の作用を阻害するヒト化IgG1モノクローナル抗体であり、コントロール不十分な喘息向けに開発されていたMEDI-528について、第IIb相試験で有効性が認められなかったことから、開発プログラムを中止する決定が下されました。

この結果、第3四半期に、中核EPSから除外された同プログラムに関連した無形資産評価減として2,200万ドルが計上されました。

### 今後の見通し

9カ月間の売上実績は当社の予想と一致しており、当社は、通年の売上は、2010年と比較するとCERベースで横ばいから1桁前半のレンジの減少となる可能性があるかと引き続き予想しています。

為替変動は、財務ガイダンスが前提としている2011年1月における平均為替レート（最近接5セントへの丸め）と比較して中核EPSにさらに3セントのプラス影響を与えており、これが中核EPSの年間目標上方修正の根拠となっています。さらに絞り込んだ新たな目標レンジは、1株当たり7.20ドル～7.40ドルです。

この目標には、2011年末までの平均為替レートが当社の収益ガイダンスが前提としている2011年1月における平均為替レートから大幅に変動する可能性は考慮されていません。米ドルに対する当社の主要取引通貨の変動によって、売上高や収益が受ける影響度の予想は、2010年度通年業績発表とともに示されており、当社ウェブサイトで閲覧可能です。

## 売上高

別段の記載がない限り、伸び率はすべて恒常為替レート（CER）。

### 消化器

	第3四半期		CER (%)	9カ月		CER (%)
	2011 100万ドル	2010 100万ドル		2011 100万ドル	2010 100万ドル	
Nexium	1,089	1,242	-16	3,362	3,738	-12
Losec/Prilosec (オメプラール)	224	233	-13	698	743	-13
合計	1,350	1,512	-15	4,172	4,588	-12

- Nexiumの米国の第3四半期の売上は前年同期比16%減の5億7,000万ドルでした。小売部門の調剂量は約8%減少しました。米国の医療保険制度改革の影響に加え、低い平均価格時の大量注文なども発生したことによって、Nexiumの平均実勢小売価格は前年同期比約10%下落しました。
- Nexiumの米国の9カ月の売上は12%減の17億8,300万ドルでした。
- Nexiumの米国以外の第3四半期の売上は14%減の5億1,900万ドルでした。西ヨーロッパの売上は、主に後発品の発売の影響を受けて50%減でした。米国と西ヨーロッパ以外の売上は、日本での新発売によってカナダの売上減が相殺され、35%増でした。新興市場の売上は12%増で、中国の24%の売上増が含まれています。
- Nexiumの米国以外の9カ月の売上は12%減の15億7,900万ドルでした。
- Prilosecの米国の9カ月の売上は24%減の3,000万ドルでした。
- Losecの米国・西ヨーロッパ以外の第3四半期の売上は14%減の2億1,500万ドルでした。米国・西ヨーロッパ以外の9カ月の売上は、13%減の6億6,800万ドルでした。

### 循環器

	第3四半期		CER (%)	9カ月		CER (%)
	2011 100万ドル	2010 100万ドル		2011 100万ドル	2010 100万ドル	
Crestor	1,659	1,374	+14	4,851	4,104	+14
Atacand	364	359	-8	1,104	1,108	-5
セロケン/Toprol-XL	273	273	-4	750	957	-24
スプレンジール/Plendil	66	63	-	196	192	-2
ゼストリル	37	35	-3	109	117	-11
ONGLYZA™	59	19	+211	140	37	+278
Brilinta/Brilique	13	-	n/m	16	-	n/m
合計	2,600	2,249	+9	7,558	6,916	+5

- Crestorの米国の第3四半期の売上は、20%増の7億5,300万ドルでした。Crestorの総処方量は、米国のスタチン市場全体における伸び率0.5%に対し、3%増えました。総処方量の市場シェアは、シンバスタチンのラベル変更を受け、6月から40ポイント増の12.4%となりました。Crestorのダイナミックシェア（新規および切り替え患者）は約15%となっています。
- Crestorの米国の9カ月の売上は、18%増の22億3,100万ドルでした。
- 米国・西ヨーロッパ以外のCrestorの第3四半期の売上は9%増の9億600万ドルでした。米国・西ヨーロッパ以外の既存市場の売上は、日本、カナダ、オーストラリアでの売上が引き続き桁伸びしたことを受けて17%増でした。新興市場の売上は、ブラジルでの後発品との競合を反映して7%増でした。西ヨーロッパの売上は2%増でした。

- 米国・西ヨーロッパ以外のクレストールの9カ月の売上は10%増の26億2,000万ドルでした。
- 自社後発品の売上を含むToprol-XL製品の米国の第3四半期の売上は17%減の1億2,300万ドルでした。フランチャイズの総処方量は前年同期比23%減でした。8月に3つ目の後発品が発売され、価格がやや低下しました。また、報告ベースの売上は、返品とリベートの引当金が若干調整されたことにより、プラスの影響を受けました。
- Toprol-XLフランチャイズの米国の9カ月の売上は45%減の3億1,500万ドルでした。
- セロケンの米国以外の第3四半期の売上は12%増、9カ月の売上は7%増でした。新興市場の第3四半期の売上は20%増、9カ月の売上は14%増でした。
- Atacandの米国の第3四半期の売上は15%減の4,400万ドル、9カ月の売上は16%減の1億3,900万ドルでした。
- Atacandの米国・西ヨーロッパ以外の第3四半期の売上は6%減の3億2,000万ドルでした。年初来の売上は4%減でしたが、新興市場の売上は4%増でした。
- ブリストル・マイヤーズ スクイブ社との提携から生じるONGLYZA™の提携売上は第3四半期に合計5,900万ドル、9カ月に合計1億4,000万ドルでした。米国内での第3四半期の提携収入は4,400万ドル、9カ月の提携収入は1億300万ドルでした。米国DPP-4市場の総処方数のうちONGLYZA™のシェアは、2011年9月に15.5%（KOMBIGLYZE XR™の3.7%のシェアを含む）に達しました。DPP-4治療の新規患者でのONGLYZA™フランチャイズのシェアは10月14日終了週には25.5%でした。
- Brilinta/Briliqueの第3四半期の売上は、米国での発売に伴う1,100万ドル相当の在庫を反映して1,300万ドルでした。

#### 呼吸器および炎症

	第3四半期		CER (%)	9カ月		CER (%)
	2011 100万ドル	2010 100万ドル		2011 100万ドル	2010 100万ドル	
シムビコート	755	640	+9	2,309	2,005	+10
パルミコート	185	180	-3	669	639	+1
Rhinocort	52	55	-13	162	175	-11
Oxis	14	15	-13	42	48	-19
アコレート	5	17	-76	17	50	-68
合計	1,044	936	+4	3,302	3,013	+5

- シムビコートの米国の第3四半期の売上は前年比15%増の2億100万ドルでした。シムビコートの総処方量は定量配合剤クラスにおける2.5%減と比較して前年同期比9%増でした。その結果、総処方量に占めるシムビコートのシェアは、新製品が上市されたにもかかわらず、2011年9月に前年同期比2.1ポイント増の19.7%となりました。新規配合剤治療の新規患者での市場シェアは26.6%です。
- シムビコートの米国の9カ月の売上は、14%増の6億400万ドルでした。
- シムビコートの米国以外の第3四半期の売上は前年同期比7%増の5億5,400万ドルでした。米国・西ヨーロッパ以外の既成市場での売上は、日本での高い伸びに加え、カナダとオーストラリアでの2桁の伸張を反映して23%増加しました。新興市場の売上は、主にヨーロッパの新興市場での伸びを受けて9%増でした。西ヨーロッパの売上は3%増でした。
- パルミコートの米国での第3四半期の売上は15%減の5,200万ドルでした。9カ月の売上は8%減の2億1,800万ドルでした。
- パルミコートの米国と西ヨーロッパ以外の第3四半期の売上は、新興市場における28%の増加が他の地域の売上減を上回ったことを受けて3%増の1億3,300万ドルでした。米国・西ヨーロッパ以外の9カ月の売上は6%増の4億5,100万ドルでした。

## オンコロジー

	第3四半期		CER (%)	9カ月		CER (%)
	2011 100万ドル	2010 100万ドル		2011 100万ドル	2010 100万ドル	
アリミデックス	176	284	-44	590	1,234	-55
ゾラデックス	304	268	+8	881	813	+4
カンデックス	137	137	-9	408	431	-13
イレッサ	145	102	+29	405	278	+35
Faslodex	139	84	+57	397	234	+65
ノルバデックス	25	21	+10	72	64	+5
Caprelsa	2	-	n/m	4	-	n/m
合計	930	899	-4	2,766	3,063	-14

- アリミデックスの米国の第3四半期の売上は、2010年6月に上市された後発品と競合した結果、81%減の800万ドルでした。後発品は、アナストロゾールの総処方量の96%を占めています。
- アリミデックスの米国の9カ月の売上は、92%減の3,700万ドルでした。
- アリミデックスの米国以外の第3四半期の売上は、西ヨーロッパの売上が2011年2月に独占権を失い65%減となったことを反映して、37%減の1億6,800万ドルでした。米国と西ヨーロッパ以外の既成市場の売上は1%減でした。米国と西ヨーロッパ以外の新興市場の売上は5%減でした。
- 米国・西ヨーロッパ以外のアリミデックスの9カ月の売上は32%減の5億5,300万ドルでした。
- カンデックスの第3四半期の売上は、9%減の1億3,700万ドルでした。後発品がビカルタミドの処方量の98%を占める米国では、売上は計上されませんでした。
- カンデックスの米国と西ヨーロッパ以外の第3四半期の売上は、主に西ヨーロッパで後発品と競合して42%減となったことを受けて、7%減の1億3,700万ドルでした。世界の製品売上の60%以上を占める日本の売上は5%減でした。米国・西ヨーロッパ以外の9カ月の売上は10%減の4億900万ドルでした。
- イレッサの第3四半期の売上は、期中の増加分の半分以上を占める西ヨーロッパの3,400万ドルの売上を含め、29%増の1億4,500万ドルでした。新興市場の売上は30%増で、中国の30%の売上増が含まれています。日本の売上は前年同期並みでした。
- イレッサの9カ月の売上は35%増の4億500万ドルでした。
- Faslodexの500mg投与量の使用が増加した結果、第3四半期の好調な伸びにつながりました。米国の売上は97%増の6,500万ドル、米国と西ヨーロッパ以外の売上は31%増の7,400万ドルでした。
- Faslodexの米国の9カ月の売上は96%増の1億9,200万ドルでした。米国と西ヨーロッパ以外の売上は43%増の2億500万ドルに達しました。

## ニューロサイエンス

	第3四半期		CER (%)	9カ月		CER (%)
	2011 100万ドル	2010 100万ドル		2011 100万ドル	2010 100万ドル	
セロクエル	1,400	1,303	+4	4,282	3,962	+6
セロクエル IR	1,034	1,024	-2	3,190	3,124	-
セロクエル XR	366	279	+24	1,092	838	+26
ゾーミグ	108	103	-3	312	318	-6
Vimovo	10	5	+80	20	5	+280
合計	1,745	1,644	+2	5,321	4,998	+4

- セロクエル・フランチャイズの米国の第3四半期の売上は4%増の9億7,500万ドルでした。セロクエル・フラン



チャイズの総処方量は、第3四半期では2%減でした。セロクエルXRの総処方量は12%増となり、米国におけるフランチャイズの総処方量の17.3%、フランチャイズ売上の19%を占めます。セロクエル・フランチャイズの2011年9月の時点での市場シェアは首位の29.7%（2011年6月から20ポイント減）でした。

- セロクエルの米国における9カ月の売上は、前年比7%増の29億9,900万ドルでした。セロクエルXRの米国における売上は、前年比18%増の5億6,500万ドルでした。
- セロクエル・フランチャイズの米国・西ヨーロッパ以外の第3四半期の売上は4%増の4億2,500万ドルでした。セロクエルXRの売上は33%増加し、米国以外のフランチャイズ売上の43%を占めています。西ヨーロッパでのフランチャイズ売上は6%増、セロクエルXRの売上は25%増でした。セロクエル・フランチャイズの米国と西ヨーロッパ以外の既成市場の売上は1%増でした。セロクエル・フランチャイズの新興市場の売上は、セロクエルXRの好調な伸びがブラジルでのセロクエルIRの独占権喪失後の売上減により相殺され、1%減でした。
- セロクエルの米国・西ヨーロッパ以外の市場での9カ月の売上は、4%増の12億8,300万ドルでした。セロクエルXRの売上は37%増の5億2,700万ドルでした。
- Vimovoの米国における9カ月の売上は1,400万ドル、米国・西ヨーロッパ以外の市場での売上は600万ドルでした。

#### 感染症・その他

	第3四半期		CER (%)	9か月		CER (%)
	2011 100万ドル	2010 100万ドル		2011 100万ドル	2010 100万ドル	
Synagis	108	139	-22	564	641	-12
Merrem	139	204	-37	469	634	-29
FluMist	124	120	+3	127	123	+3
非季節性インフルエンザ ワクチン	-	-	-	7	39	-82
合計	400	493	-21	1,261	1,520	-18

- 米国でのRSVシーズン前にあたる第3四半期のSynagisの売上は、当社の国際販売代理店であるAbbott社への出荷タイミングにより、米国・西ヨーロッパ以外の売上が22%減少したことを反映しています。
- FluMistの売上は前年同期比3%増の1億2,400万ドルでした。
- Merremの第3四半期の売上は、米国と西ヨーロッパで後発品が競合した結果、37%減でした。

#### 地域別売上

	第3四半期		CER (%)	9か月		CER (%)
	2011 100万ドル	2010 100万ドル		2011 100万ドル	2010 100万ドル	
米国	3,187	3,179	-	9,783	10,273	-5
西ヨーロッパ	2,067	2,150	-15	6,496	6,821	-10
ROWの既成市場*	1,504	1,262	+7	4,301	3,701	+5
ROWの新興市場	1,455	1,307	+7	4,355	3,857	+10

\* ROW（米国と西ヨーロッパ以外の地域）の既成市場を構成するのはカナダ、日本、オーストラリアおよびニュージーランドです。

- 米国の第3四半期の売上は前年同期並みでした。医療保険制度改革政策による価格影響により、売上は約3.5%減少しました。後発品が上市されてから1年以上経ち、アリデミックスの売上の急減は緩やかになってきました。クレストール、セロクエルXR、ONGLYZA™およびシムビゴートの好調な伸びは、Nexium、MerremおよびToprol-XLの売上減を上回りました。
- 西ヨーロッパの売上は、セロクエルXR、イレッサ、Faslodexおよびクレストールの伸張にもかかわらず、第3四半期では15%減でした。最近、後発品と競合するようになった3製品（Nexium、アリデミックスおよびMerrem）の売上減少は、当四半期の売上減少の3分の2以上を占めています。同地域の実勢小売価格は引き続き1桁台半ばのレンジで下落しました。

- 米国・西ヨーロッパ以外の既成市場の第3四半期の売上は7%増でした。その大部分は、日本で*Nexium*の発売に伴う在庫に加え、*クレストール*と*シムビコート*の好調な伸びが売上の10%増につながったことによるものです。カナダの売上は、*クレストール*の伸びが*Nexium*と*Atacand*の後発品との競合の影響により相殺され、1%減でした。米国・西ヨーロッパ以外のその他の既成市場の売上は11%増でした。*クレストール*の伸びがこの売上増の半分近くを占めています。
- 新興市場の第3四半期の売上は7%増でした。最近の四半期に比べて伸びが緩やかになっているのは、主に、ブラジルで*クレストール*と*セロクエルIR*の後発品との競合や、第4四半期に出荷の見通しとなった中東での政府入札の遅れなどの影響により、米国・西ヨーロッパ以外の新興市場の伸びが緩やかになったためです。中国の売上は13%増加しました。

## 営業およびファイナンシャルレビュー

別段の記載がない限り、伸び率はすべて恒常為替レート（CER）ベースおよび中核ベースで示されています。当社の報告ベースの財務情報に加えて提示するこうした指標はGAAP（一般会計原則）とは異なる指標であり、当社グループの進行中のビジネスの基礎的な財務実績やそれにプラスとなるビジネス上の重要な要素をよりよく理解していただく上で有益だと当社経営陣は考えています。中核ベースの財務指標では、当社のグローバルな事業再構築および相乗効果プログラムの費用および引当金、2007年のMedImmune社買収に関連する重要な無形資産の償却および評価減、米国での現在および将来にわたるメルク社との提携打ち切りに関する取決めやその他の特殊項目といったいくつかの項目を除外するよう調整されています。これら調整の性質に関する詳細は、当社のアニュアルレポートの80ページおよび2010年米国証券取引委員会（SEC）への提出書類20-Fに示されています。

### 第3四半期

1株当たり利益を除く財務上の数字は、すべて100万単位。加重平均株数も100万単位。

	2011年 報告ベース	事業再構築 費用	メルク社 および MedImmune 社 償却	無形資産 評価減	法務関連引 当金**	2011年 中核 ベース	2010年 中核 ベース	前年同期 比 (%)	CER (%)
売上高	8,213	-	-	-	-	8,213	7,898	4	(2)
売上原価	(1,593)	(14)	-	-	-	(1,607)	(1,505)		
営業総利益	6,620	(14)	-	-	-	6,606	6,393	3	-
売上比%	80.6%					80.4%	80.9%	-0.5	+1.2
物流費	(93)	-	-	-	-	(93)	(82)	13	5
売上比%	1.1%					1.1%	1.0%	-0.1	-0.1
研究開発費	(1,296)	124	-	22	-	(1,150)	(986)	17	10
売上比%	15.8%					14.0%	12.5%	-1.5	-1.5
販売一般管理費	(2,644)	111	117	-	21	(2,395)	(2,316)	3	(2)
売上比%	32.2%					29.1%	29.3%	+0.2	+0.2
その他収入	1,675	-	17	-	(1,483)**	209	222	(6)	(5)
売上比%	20.4%					2.5%	2.8%	-0.3	-0.1
営業利益	4,262	221	134*	22	(1,462)	3,177	3,231	(2)	(2)
売上比%	51.9%					38.7%	40.9%	-2.2	-0.3
正味支払利息	(93)	-	-	-	-	(93)	(148)		
税引き前利益	4,169	221	134	22	(1,462)	3,084	3,083	-	(1)
税金	(684)	(58)	(23)*	(6)	(6)**	(777)	(922)		
税引き後利益	3,485	163	111	16	(1,468)	2,307	2,161	7	6
少数株主持分	(8)	-	-	-	-	(8)	(6)		
純利益	3,477	163	111	16	(1,468)	2,299	2,155	7	6
加重平均株式数	1,354	1,354	1,354	1,354	1,354	1,354	1,437		
1株当たり利益	2.56	0.12	0.08	0.01	(1.06)**	1.71	1.50	14	12

\* 1億3,400万ドルの償却調整費のうちの9,300万ドルは、関連する税調整2,300万ドルを伴うMedImmune社関係の償却調整費です。メルク社関係の償却費は4,100万ドルで、これには税調整は発生しません。

\*\* アストラテックの売却益は14億8,300万ドルで、これには税調整は発生しません。

売上高は2%減の82億1,300万ドルでした。

中核対売上総利益率80.4%は、主に2010年第3四半期のlesogaberan（AZD3355）の無形資産評価減（1.6ポイント）により、前年比でのコスト削減に伴う不利差異により部分的に相殺され、前年比で1.2ポイント増でした。

中核販売一般管理費は前年比2%減の23億9,500万ドルでした。米国の医療保険制度改革による消費税の影響は業務効率化を上回りました。

中核その他収入は、主に米国における後発品の参入に伴いEntocortのライセンス料が失われたことにより、前年比5%減の2億900万ドルでした。

中核研究開発費控除前営業利益率は、主に売上総利益が上記のとおり増加したことにより、1.2ポイント増の52.7%でした。

中核研究開発費は、後期段階の開発費、バイオ医薬品への投資、無形資産評価減の若干の増加により、前年比

10%増の11億5,000万ドルでした。

中核営業利益はCERベースで2%減の31億7,700万ドルでした。

第3四半期中核EPSは、中核営業利益の減少が税率の低下、発行株式数の減少、正味支払利息の減少を上回り、12%増の1.71ドルでした。

報告ベースの営業利益は、期中のアストラテックの売却益（中核営業利益には含まれていない）と前年同期比での法務関連引当金の減少を反映して、78%増の42億6,200万ドルでした。

報告ベースのEPSは、主にアストラテックの非課税売却益、発行株式数の減少、法務関連引当金の減少を受け、140%増の2.56ドルでした。

## 9カ月

表中の1株当たり利益を除く財務上の数字は、すべて100万単位。加重平均株数も100万単位。

	2011年 報告ベース	事業再構築 費用	メルク社 および MedImmune 社 償却	無形資産 評価減	法務関連引 当金**	2011年 中核 ベース	2010年 中核 ベース	前年同期 比 (%)	CER (%)
売上高	24,935	-	-	-	-	24,935	24,652	1	(3)
売上原価	(4,414)	18	-	-	-	(4,396)	(4,520)		
営業総利益	20,521	18	-	-	-	20,539	20,132	2	(1)
売上比%	82.3%					82.4%	81.7%	+0.7	+1.4
物流費	(261)	-	-	-	-	(261)	(248)	5	(1)
売上比%	1.0%					1.0%	1.0%	-	-
研究開発費	(3,656)	293	-	22	-	(3,341)	(2,925)	14	8
売上比%	14.7%					13.4%	11.9%	-1.5	-1.3
販売一般管理費	(8,020)	191	352	-	105	(7,372)	(6,899)	7	3
売上比%	32.2%					29.6%	28.0%	-1.6	-1.5
その他収入	2,044	-	51	-	(1,483)**	612	678	(10)	(11)
売上比%	8.2%					2.4%	2.8%	-0.4	-0.2
営業利益	10,628	502	403*	22	(1,378)	10,177	10,738	(5)	(6)
売上比%	42.6%					40.8%	43.6%	-2.8	-1.6
正味支払利息	(313)	-	-	-	-	(313)	(389)		
税引き前利益	10,315	502	403	22	(1,378)	9,864	10,349	(5)	(5)
税金	(1,792)	(132)	(73)	(6)	(28)	(2,031)	(2,647)		
税引き後利益	8,523	370	330	16	(1,406)	7,833	7,702	2	1
少数株主持分	(26)	-	-	-	-	(26)	(17)		
純利益	8,497	370	330	16	(1,406)	7,807	7,685	2	1
加重平均株式数	1,377	1,377	1,377	1,377	1,377	1,377	1,445		
1株当たり利益	6.17	0.27	0.24	0.01	(1.02)	5.67	5.32	7	6

\* 4億300万ドルの償却調整費のうち2億8,000万ドルは、関連する税調整7,300万ドルを伴うMedImmune社関係の償却調整費です。メルク社関係の償却費は1億2,300万ドルで、これには税調整は発生しません。

\*\* アストラテックの売却益は14億8,300万ドルで、これには税調整は発生しません。

売上高は3%減の249億3,500万ドルでした。

中核対売上総利益率82.4%は、第1四半期のPDL Biopharma社との和解および前年の無形資産評価減の影響によって、前年比で1.4ポイント増でした。

中核販売一般管理費は、新興市場での継続的な投資および米国の医療保険制度改革による消費税が効率化に伴う利益に部分的に相殺され、前年比3%増の73億7,200万ドルでした。

中核その他収入は、引当金の動向や前年第3四半期の高い処分利益などを含むさまざまな影響を受けて、前年比11%減の6億1,200万ドルでした。

中核研究開発費控除前営業利益率は、売上総利益の増加を、販売一般管理費の増加およびその他収入の減少が上

回り、0.3ポイント減の54.2%でした。

中核研究開発費は、後期段階プロジェクトへの支出や無形資産の評価減計上の影響を受けて、前年比8%増の33億4,100万ドルでした。

中核営業利益は6%減の101億7,700万ドルでした。中核営業利益率は、その他収入の減少とともに研究開発費と販売一般管理費の増加を受けて、1.6ポイント減少して40.8%でした。

9カ月の中核EPSは、営業利益の減少が税率の低下、発行株式数の減少、正味支払利息の減少を上回り、6%増の5.67ドルでした。

報告ベースの営業利益は16%増の106億2,800万ドルでした。報告ベースのEPSは38%増の6.17ドルでした。

## 受取利息と支払利息

9カ月の正味支払利息は、2010年の3億8,900万ドルに対し、3億1,300万ドルでした（2010年第3四半期1億4,800万ドルに対し、当期9,300万ドル）。減少した貸方残高の借入金利が低下し、年金制度にかかる純財務費用が減少しました。長期債に計上された公正価格利得は、9カ月では600万ドル増でした。第3四半期では、前年同期の300万ドルの損失に対し、1,800万ドルの利得でした。

## 税金

第3四半期の実効税率は前年同期の31.2%に対して16.4%、9カ月の実効税率は前年同期の25.8%に対して17.4%でした。第3四半期に計上されたアストラテックの売却益は非課税であり、この項目を除く第3四半期の実効税率は25.5%でした。

以前の開示のとおり、実効税率は、2002年から2014年末までの期間のアストラゼネカの米国での事業に関する移転価格処理および関連評価額案件に関して、英国の歳入関税庁と米国の国税庁が事前価格確認の条件に合意したとする3月の発表後の、過去の四半期の調整によるプラス影響を受けました。この利益と非課税のアストラテックの売却益を除外すると、9カ月の報告ベースの実効税率は26.1%でした。この26.1%の税率は営業利益に対する中核課税対象調整に適用されており、9カ月の中核実効税率は20.6%でした。

通年では、報告ベースの実効税率を19%前後と予想しています。中核税率はこれより高い21%~22%になると予想されます。

## キャッシュフロー

2011年9月30日までの9カ月に営業活動から生じるキャッシュフローは、前年同期の71億2,000万ドルに対して、47億5,200万ドルでした。この23億6,800万ドルの減少は、英国および米国政府の税務当局間での事前価格確認、関連評価額案件の和解、および運転資金の増加に関連する正味金額1億ドルを含め、主に本年度の納税額の増加によるものです。

前年同期の17億7,400万ドルの流出に対して、投資活動による9カ月の正味キャッシュ流入は15億5,800万ドルでした。この33億3,200万ドルの増加は、主にアストラテックの売却時に受け取った17億7,200万ドルの純現金、短期投資と定期預金の6億2,200万ドルの変動、無形資産買収の9億1,500万ドル減少によるものです。

株主への現金配分は、自社株取得正味額38億7,800万ドルおよび2010年の第2回中間配当と2011年の第1回中間配当37億6,400万ドルによる76億4,200万ドルでした。

## 資本と負債の構造

2011年9月30日現在、未払い負債残高（ローン、短期借入金および当座借越を含む）は94億4,900万ドルでした（2010年12月31日現在では92億2,200万ドル）。2011年9月30日現在の未払い負債残高のうち、1年以内に返済期限が到来するのは20億5,500万ドル（2010年12月31日の時点では1億2,500万ドル）です。前述の2011年9月までの9カ月間における正味キャッシュフローの流出の結果、正味資金17億1,900万ドルは今年度に19億3,400万ドル減少しています。

## カレンダー

---

2012年2月2日	2011年第4四半期・通年業績発表
2012年4月26日	2012年第1四半期業績発表
2012年4月26日	年次総会
2012年7月26日	2012年第2四半期・上半期業績発表
2012年10月25日	2012年第3四半期・9カ月累計業績発表

最高経営責任者  
デビッド・ブレナン